

GC リーダーズサミット 2010

菅原絵美 (大阪大学大学院)

GC10 周年である今年、3 年に一度開催される GC のハイレベル会合、リーダーズサミットが 6 月 23 日から 25 日まで (23 日はレセプションのみ) ニューヨークで開催された。リーダーズサミット本会議と 20 を越えるサイドイベントから構成されており、年次ローカルネットワーク会合や第 2 回 PRME グローバル・フォーラムなどもサイドイベントとして位置づけられていた。報告者は、GC-JN 事務局の一員として、2010 年 6 月 21 日から 24 日まで滞在し、「年次ローカルネットワーク会合」と「企業と人権に関するリーダーズブレックファースト」に参加した (リーダーズサミットは企業の経営トップ層 (CEO や CFO など C の付く役職の者) のみが参加できる会合であり、各ローカルネットワークからも代表のみが参加できる。よって、今回の GC-JN 事務局員としての主たる目的は、年次ローカルネットワーク会合への参加である)。

1. GC リーダーズサミット 2010 について : 資料 1 参照

初日 23 日には、各国閣僚を招いての閣僚セッションがあり、40 カ国からの政府代表による「閣僚声明 : 開発における企業責任と民間セクターの関与を促進する際の政府の役割」が採択された。ミレニアム開発目標 (MDGs) の達成にむけた企業の関与をどう進めるかに主眼を置いた声明ではあるが、企業責任の文脈でジョン・ラギーの「国連枠組 (保護・尊重・救済枠組)」、また開発への民間セクターの貢献の文脈で「女性のエンパワメント原則」の重要性が確認された。

24・25 日のリーダーズサミットはレセプションを除くと 1.5 日のプログラムであり、3 つのセッション (①サステナビリティに関する課題設定、②変革の推進、③発展を達成するために) で構成されており、10 数人が円卓のテーブルでディスカッションする方式で進められた。総勢で 1200 人を越える参加者数であった。

リーダーズサミットの成果文書としてニューヨーク宣言が採択された (GC 参加企業・団体 8000 の宣言として採択。人権に関するところでは、前述の「国連枠組」および「女性のエンパワメント原則」に対する支持が表明された)。また今後 10 年の GC 参加企業・団体の目指すパフォーマンス目標として、Blueprint for Corporate Sustainability Leadership within the Global Compact (①GC10 原則の経営戦略・事業での実現、②国連の諸目標・課題へのアクション、③国連 GC との取組み (GC の作業部会やローカルネットワークでの活動への参加) の 3 つを柱とする) が採択された。

2. サイドイベントについて : 資料 2 参照

①年次ローカルネットワーク会合について

サイドイベントということで、全体として 4 時間程度であり、全体会合とブレイクセッションの 2 部構成であった。全体会合の主たるテーマは、2009 年度のローカルネットワーク年次報告書の完成でありその内容の概要の説明があった。加えて、Notable COP から UNGC Advanced Program への移行が発表され、これまでの形式的な評価から実質的な評価 (質の評価) への転換が説明された。さらに、活動の積極的なローカルネットワークの表彰が今年から始まり、日本、ウクライナ、セルビアの 3 つのネットワークが受賞した。

ブレイクセッションでは、テーマ毎に 4 つのグループ (GC 課題分野①・②、ローカルネットワークマネジメント、ステークホルダーとツール) に分かれ、それぞれ 4 または 5 のローカルネットワークが自己の活動について 5 分程度の報告を行った。この際、韓国ネットワークの Ju 大使より日中韓 GC 共同サーベイの報告があった。

②企業と人権に関するリーダーズブレックファーストについて

24 日早朝のイベントであったが 200 人を越える参加者であった。メアリー・ロビンソンが議長を務めた。内容としては、①ジョン・ラギーによる講演 (人権小委員会の人権規範を含む、グローバルな課題としての企業と人権、および「国連枠組」の説明)、②企業の取組発表 (タタグループおよびユニリーバ)、③政府関係者からの講演 (オランダ国連代表部およびスイス開発協力庁) であった。ロビンソンのコーディネートのもと、企業、NGO、有識者からラギー枠組を称賛するスピーチが行われたのが印象的であった。